

総合教育会議

日時：令和6年2月17日（土）

10時00分～10時43分

場所：市役所本庁舎 第一会議室

（清水調査担当主幹）

それでは定刻となりましたので、ただいまより、「総合教育会議」を開催いたします。会議に先立ちまして、事務局からご報告いたします。

本日の会議の出席者につきましては、お手元の名簿と配席図をもって代えさせていただきます。なお、本日の会議には、協議題に関しまして、松雄副市長が関係者として同席していただいております。

それでは、ここからの進行は、本会議の招集者であります河村市長にお願いいたします。

（河村市長）

はい、それでは、おはようございます。教育委員の皆さんには、休みというわけではありませんけども、ようおいでいただきまして、ありがとうございます。

今日の議題は、教員団体からの金品授受に関する対応についてということでございます。まあ私と言いますか、皆さんと一緒に、「一人の子どもも死なせないマチナゴヤ」ということで、心血を注いでおりますけども、この間わかってきたことにですね、まことに、市民からすれば、いったい何をやっとするんだという話のですね、特にまた、子どもさんの教育に関わることでですので、平たいことと言うと、私からすれば、一人の子も死なせないナゴヤと。そのためには相当の努力がいるわけです、いろいろ。それに最も熱心な人たちが校長になってってもらおうというのを当然期待しとるわけですよ。

ところが、何か金品の授受によってですね、まあそういうことになっとなるのではないかな。人事がそうなっとなるのではないかな。なっとらんという人もおりますけど。なっとらんのなら、なんでそんな金がかかるんだということになりまして、これは非常に重大な、市全体の行政、政治というか、市民生活に関わることだということで、皆さんに集まっただいて、市長も当然のことながら、責任は重いわけです、これは。端的に言いますと、予算調整権といいますか、これは市長が持っておりますし、全体的に統括するというような表現じゃないけど、なんやら権というふうな名前がついておりまして。なぜかという、市長は選挙がありますから、市民に対して責任を負うということになっております。こういう責任が

あると。一方、教育委員会の方もですね、人事権といいますか、そういうのもありましてですね、その場合どうするかということについては、法律でですね、明確にこの総合教育会議。ここで議論してその結論を尊重するという規定に明確に位置付けられておりますので、本日集まっていたということでございます。ぜひ、忌憚のないとよう言いますけど、本当に皆さんの思うところ、お話をいただきたいということでございまして、教育委員会からご意見ということでございますが、教育長さんありますか。じゃあお願いします。

(坪田教育長)

このたび、教務部教職員課が、市内16行政区の校長会をはじめとする教員による任意団体から、次年度の市立小中学校の校長、教頭、教務主任の推薦者名簿とともに、現金等の金品を受け取っていた、との報道がありました。市民の皆様には、人事行政に不信を招いていることについて、深くお詫び申し上げます。この件については、まだまだ未解明な点も多く、今後、しかるべき体制で調査検証をする必要があると考えております。以上です。

(河村市長)

えーそうしたら、それぞれですね、まず年齢別ではないけど、鎌田さんということになると思いますので、鎌田委員からご発言をお願いします。

(鎌田委員)

はい。教育委員の鎌田でございます。何点か申し上げたいというふうに思います。

私は教育委員を拝命いたしておりまして、非常に名古屋市教育委員ということでですね、身の引き締まる思いでお引き受けしたわけなんですけども、今回の事案、テレビ報道、新聞報道を拝見しましてですね、非常に悲しい、みつともない、そこにいるのは恥ずかしいというふうに思うような感じになっていると。

もとより、全般的には、市の教育委員会、事務局の方々は非常にいい仕事しておられることが多いだろうというふうに思うんですけども、ただ、やはり民間からきた人間としまして、危うさというものを感じていたことは事実であります。予算が必要になると、市長にぜひくださいくださいと言って、予算を確保したら、あとはもう直接、教育委員会っていうのは、市長の直接の命令を受けないというふうなことで、独立王国といいますかですね、そういうことで自由な、それがまたある程度は必要なことだろうというふうに思いますんですけど、それが行き過ぎてるんだだろうというふうなことがあったんじゃないか、というふうな感じを受けていたわけであります。

教育委員というのは教育委員会におきまして、普通の民間企業における社外取締役のような存在ではないかと。つまり、日常業務に深く入っているわけじゃないので、そこに上がってくる議題を見て、どう判断するかということになるわけなんですけれども、当然のことながら、情報の収集といいますか、そこに限度があるわけでありまして、今までも私質問したことありますけれども、校長の人事、これで候補者が1人しかいない。他に候補いないんですか、というふうな質問をさせていただいたことがあります。その時に、こうこうこういう理由で、ということでメールの説明を受けるわけですけども、そこにそのデータが添付されているわけではなくてですね、本当にそれでいいのかなというような疑問を持っていたことは事実ですね。

で、そういう大きな流れといいますか、そういうふうに感じたことがある中で、それで申し上げたいと思っていることがですね、今回の事案、新聞報道、テレビ報道が正しいというふうにしたときに、過去、かなりの期間に亘ったんだというふうに思いますけれども、その間に、教育委員会事務局の中に、これいくらなんでもまずいですよ、ということを使った、そうやって声を上げた人がいなかったのかどうかと。で、その人がその後どういう立場に置かれたのか。例えば、教育委員会の外に異動になったとか。そういう意見が直接反映されないようにした、あるいは言いたかったけども、言わなかった。あるいは飲み会の時に言ったけども、そのあと続かなかったというようなことがあるのか。それとも誰も言わなかったのか。あれほど注目された自民党で、空気がよどんでいると思われた中でも、安倍前首相がですね、これはまずいよ、やめようっていうふうに言ったと報道されてるわけでありまして、教育委員会の中でもこれはまずいんじゃないかという意見が本当に上がってこなかったのかなと。もし、本当に上がってこなかったのであれば、これは上から下まで全部腐っていると。性根が本当に腐っているというふうに断じざるを得ないと思います。

この新聞報道等から見ますと、これは誰が見てもこれ贈賄・収賄ということに、市民感情としてなるんじゃないかというふうに思いますけども、本当にそれでもいいのかというふうなことを誰も思わなかったのかっていうと、多分そんなことないだろうというふうに思うんですよね。従ってその、今後、検証委員会といいますか、そういう話があるんだろうと思うんですけども、あるいは再発防止策というのがいずれできるんだろうと思いますけれども、その時にはそういう正しい発言をした方を呼び戻してですね、そういう方がおられるかどうか知りません、知らない上で申し上げてるんですけども、そういった方に、透明性公平性委員会って例えば作ったとするならば、そこで重要なポジションを占めていただくとか、あるいは今の市の教育委員会事務局の中で重要なポジションには民間から誰か来ていただくと。それも一つじゃなくて、二つの、複数の部署に

来ていただくとかですね。それは教育の専門家じゃないでしょうけれども、やはり組織の運営という観点からは、かなり見直しを進めないといけないんじゃないかというふうに思います。これ民間企業ですね、こういう不祥事が起こって、不買運動が起こったりしましたらですね、その会社は倒産するかもしれないですね。しかし、市の教育委員会は倒産しないんですよ。だから、これ今たまたま台風きているけど、何とかここで持ちこたえれば、またなんとか昔のように運営、経営できるんだからと。「経営」してるならまだあれですけど、「運営」ができるならというふうに思われてしまうかもしれないわけでありまして、これを契機にですね、膿を一気に出すというような形にさせていただきたいと思います。

で、一つはですね、今回は学校の中枢人事のところに、リストを持ってきて、そこで金品も一緒に持ってきてると。これが贈賄にあたらないということになるんだとすると、司法制度がどうなっているのかなというふうに思います。そこに本当にそういう気持ちもなく、金品をただやったのかと。そうすると当然のことながら、その越後屋、お主も悪よのうというのは、時代劇だけにしてほしいんですけど、そのくれた人達に対する人事、それから、くれなかった人に対する人事っていうのがですね、おおよそどうなっているだろうか。これ検証、非常に難しいだろうというふうに思います。大昔は関係なく、今は少し関係ある、あるいは今は関係ないけど、昔は関係あったっていうのは、それも全然わかりませんですけど、いろんなこと、これは検証を徹底的にやっていただきたいというふうに思うんですけど。

ちょっと話が前後して申し訳ないんですけど、本当に今、私は思いますに、事務局として、私もこの教育委員会のメンバーとして、本当に危機感を持たなければいけないというふうに思います。これ民間企業ですと、先ほど申し上げましたように、倒産してもおかしくないような、そういう事態ではないかというふうに思う、そのぐらいの危機感を持ってですね。そうすると、この教育委員会では、例えば、入札というのがあるわけです。学校作ります、あるいは博物館の改修しますっていう時に、大変大きなお金がかかるわけですけども、これに関しまして、過去ずっと遡ってですね、予定金額と、それから落札金額、これを見ていただいて、本当に一般競争入札って言いますか、自由競争入札と言いますか、そういう形が担保できてるかどうかというようなことも含めてですね、予定金額 100 のところ 99. いくつかと、よくこれは国内、いろんな地方自治体でも、国でもありますけれども、そういったことも含めてですね、他に見直すことはないかというふうなことを、この契機にみていただきたいなということで、ぜひ、これを契機に教育委員会の中に、公平性とそれから透明性を担保するような組織、これを立ち上げていただけるとありがたいと思います。以上です。

(河村市長)

ありがとうございました。それでは次に中谷委員お願いします。

(中谷委員)

私からは三点ほどあげさせていただきたいと思います。

まず初めにですね、私自身も教育委員を拝命するときに、大学の教員という本務もありますし、責任の重さに、非常に慎重に検討させていただいて、子どものため、教職員の皆さんのため、そして教育に関わる市の関係者の皆さんのためと思ひまして、自分なりに、謹んで拝命したところです。このようなことがありますという信頼をくじく事だと思います。市民のために全くなっていない、教員の信頼を裏切るような、そういう事態であるというふうに思ひます。その点について三点から申し上げたいと思ひます。

一つは外部からの視点です。外から見てですね、市民から見て、そして社会から見て、一般常識に見て、今回のことはどのように映るのかということです。あまりにも常識がかけ離れ過ぎている。あくまで激励であった、人事を配慮して欲しい意図はなかったという報道がありますけれども、それがなぜ名簿と一緒に渡されるのか、明らかにその意図があるとみなされるのが当然だと思います。それが、いやいや激励ですよというのが、教育委員会的常識だと思います。学校っていうのは私も、いろんな立場に関わってますけれども、学校独自のルールであるとか慣習ってのがあると思ひますが、今回のことについては、悪習、俗習ということだと思います。先生方本当に頑張っておられてお力のある先生もたくさんおられ、子どもたちも優秀な子たくさんいて、いろんな活躍をしてくれる可能性がある子どもたちなのに、その子どもたちに対して真正面から今回のことを説明できるのだろうか。できないんですよ、明らかにできない。そういうことを黙って行っていたということ自体が、市民感覚から見てどうなのかということですね。私も専門家として教育に関わっているいろいろ研究や協働していますが、本当に今回のことはですね、ちょっと苦笑されながらですね私がこういう仕事してることもご存知ですので、何人かの方に言われるというような事態があります。さすがに金品はないよねというのが率直な感覚でしょう。その常識について問題意識を持っていないのか、先ほど鎌田委員からもありましたけれども、内部で皆さんが知っていたわけではなく、皆さんが知らなかったわけでもなく、一部の人が知っていた。ここに問題が非常に根深いことを示していると思ひます。一部の人が利権を掌握してるとみなされてやむないことです。その人たちが気に入れば上に上申してやろう、そうじゃなければ、いやいや、その辺でということになって、先生方の本当の実力ということは、測られないということになる。これが第 2 の内部からの視点ということになりますが、教職員の皆さんか

ら見て今回の出来事というのはどういうふうに映るだろうかということです。先生方本当にいろんな、コロナが明けて、苦しい中を何とか乗り越えてこられて、この4年目ですね、日常を取り戻しつつあるこの2023年度の終わりに、人事という重要な、先生方が関わっている組織の組織体を決めるということですから、重要な案件について、このような、金銭によって変更があると見なされるような、おそらくそう見るでしょう。事実はわかりませんが、でもおそらくそう見て当然だと思います。そういうことがあからさまになったときに、じゃあ名古屋市のために頑張ろう、名古屋の子どものために頑張ろうと思えるでしょうか。その利権のコースに乗った人はそう思えるかもしれませんが、普通は何をやっているんだと。くじくと。我々が一生懸命教員不足の中で頑張って、日々を耐えて、子ども達の前では笑顔でいるこの努力は何なんだというふうに考えられかねない。力がある、やる気がある、力量のある先生の、力量形成をくじく、成長をくじくという出来事にも思えます。それが、教育委員会というガバナンスの中で行われていたということが、これも問題の根深さということを示していると思います。

内部からの視点ということで欠かせない、とても大事だと思います点はもう一つの点で、名古屋市は今年度、学びのコンパスという指針を立てて、教育振興基本計画の上位に位置づくような、中長期的な学びの指針、子ども主体の学びということを策定していて、そこに幾ばくか関わらせていただきながら議論してきたところです。にもかかわらず、子ども主体が、まるでこれは人事主体、校長主体、金銭主体に見られかねないような出来事があった。それを後生大事に抱えていたということでもあります。じゃあその学びのコンパスってどこを向いているんですか。校長人事ですか。昇進ですか。そういうふうにみなされると思います。内部からは特に、そういった、二枚舌というところとちょっと厳しいでしょうかね、どの口が言うというふうに、みなされることが、私は大変大変残念に思うことですね。1人の不祥事ではなく組織的な不祥事ですから、その点については、まず、一緒に頑張ってくれているはずの先生方を裏切っているということを振り返って、そこはいたく、年単位で、反省してるというか、見直しているっていうことを示していかないといけないと思います。

最後はですね、これから検討ということですね、本件で調査委員会等を設置することは当然ながら必要だと。外部性のある委員の皆さん、そして我々ももしかしたらそこで照会される立場になるかもしれませんが、それだけではなくてですね、本件はもちろん調査の対象ですし、厳正に審議調査、懲戒等も含めた検討をしていただく必要があるものだと思います。しかし、こういう組織の慣行が守られていたということは、他にもあり得るというふうに厳しく見て、本件以外の不適切な処遇がなかったかということも、見ていく必要があるのではないでし

ようか。教育委員という外部的な立場であります。調査委員会の方に調査自体はお任せするわけですが、それでも本件だけにとどまらない調査ということを期待したいというふうに思います。具体的には人事の刷新やガバナンスの実装ということを含めて、広くですね、教育委員会自身の実態とか慣行ということを客観的に外部的に厳しく見直すという、そういう機会にせざるをえないのかなというふうに思います。そうでなければ教育委員会自体の信頼を失墜するということになるのではないのでしょうか。以上です。

(河村市長)

はい、ありがとうございます。そしたら、山本委員さんお願いします。

(山本委員)

はい、ありがとうございます。教育委員の山本です。

まず私は名簿についてですけど、名古屋市は学校数が非常に多くて、その学校数の中で、校長、教頭、教務の人事をやるということに関して、多分その人事権のある方達が、全校長候補、教頭候補、教務候補を知っているかというのと、多分わからないと思うんですね。その中で、何名の方が決められるのかわからないんですが、自分の知っている人を推薦するわけにはいかないと思うので、名簿の存在っていうのはあっても悪くないというふうに考えております。

その団体によって、不適切なところもあるのかもしれないですが、やはりその教員の方が頑張ってきたことや、人となりみたいなことがわかるような資料として、選出するのに有効な、有益な情報をあげるという意味では名簿っていうのはあってもいいんじゃないかと思います。

しかし、それと金品授受は全く別のことなので、すべての名簿が悪いというふうになってしまうと人事をされる方たちにとっては、本当にくじを引くような、もしくは自分の知ってる人をいい人だからというふうになってしまうと余計よくないんじゃないかなと考えております。

ただし、この今までのような限られたところからだけの名簿が出てくるっていうのは、不公平だと思いますので、例えば期間を決めて、ここの期間の間には推薦した人、立候補っていうのはおかしいと思いますので、どの団体からも出せるような公平性があれば、この名簿というのは、本当にいい教員の方が、それぞれの役職に就くためには必要ではないかと思っております。ただ、ここに金品があるのは絶対良くないと思います。それとは別で考えていただきたいなと思います。

それから保護者の声として、新聞にも上がってましたが、こういうことがある学校に、校長先生に、自分の子どもを預けるのはすごく心配だと。いじめの問題

があった時に本当に公平に判断をしてもらえるか、守ってもらえるのかっていうのがすごく心配だっていう声が上がっていましたが、教員である限り、また、それを統括する組織として、いけないことはいけない、正しいことが正しいっていう判断をしなければいけない立場だと思いますので、例えばいじめでも、みんながいじめていたからいじめた、それが良い事になるわけないですね。

だからこの慣習ということも、今までやっていたからやっていたっていうこの感覚っていうのは、いじめの感覚と私は非常に似ていると思うので、そのいじめだったり、悪いことを正していかなければいけない教育者たちが、今までやってきたからそれをやり続けていたっていうのは、本当にいけないこと、間違っていますし、いけないことだと思いますし、私は教員出身なので、今回、この正しく判断せずに続けてしまっていたっていうことに関しては、非常に悲しいことですし、残念に思っています。

今後はこういうことがないように、子どもたちが安心して、そして保護者が安心して子どもを通わせられる名古屋市の教育であってほしいと考えております。以上です。

(河村市長)

はい、ありがとうございました。そしたら、教育長からなんかご発言をお願いします。

(坪田教育長)

教育委員の方々から厳しいご意見をいただきまして、改めて猛省しなければならないということを痛感しております。

教育委員会といたしましては、この件に関しまして、これまで市長にもご相談やご報告をさせていただいたところですが、文部科学省からも、今回の調査は、「お手盛りとならないよう、第三者性の確保をしたうえで実施する」よう指導を受けております。

教育委員の方々からも、第三者性、透明性の確保が求められているというふうに受け止めましたので、調査が教育委員会内部にも及び、教育委員会そのものが調査対象であることから、外部の方のお力もお借りさせていただき、調査をしたいと考え、別添資料のような調査検証の体制を提案させていただきたいというふうに思います。事務局から説明させていただきます。

(清水調査担当主幹)

では事務局からご説明させていただきます。

教員団体からの金品授受に関する調査検証体制について(案)というものでご

ざいます。

趣旨といたしましては、ペーパーに書いてあるとおり、この真相を解明するために調査検証を行い、再発防止策の提言を行っていただきたいと考えてございます。

二番目として、調査検証の体制の案でございます。学識者や弁護士の有識者からなる調査検証チームを5・6名で構成していただくとともに、松雄副市長にも調査検証チームの事務局として参加いただきたいと考えてございます。

その調査検証チームの主な役割でございます。調査検証の方法等についての方針決定、次に、調査結果の分析・評価をしていただくなど、調査検証の公平性、第三者性を確保してまいりたいと考えております。

加えまして、3つ目に書いてございます、再発防止策の提言もいただきまして、今後の教育委員会の行政運営に反映させていただきたいと考えてございます。

また、4番、事務局の主な役割でございます。この検証チームの事務補助といたしまして、必要となる資料等の調製を行うということで、その庶務事務を教育委員会事務局の総務部が担当させていただきたいと考えております。

最後に進め方でございます。調査検証の具体的な方法は、今後、この調査検証チームの協議によって決定してまいりたいと考えております。また、この調査検証につきましては、教育委員会といたしましては、市長とこの総合教育会議におきまして、必要に応じて協議・調整を行ってまいりたいと考えております。以上でございます。

(河村市長)

はい、ありがとうございます。これは案でございますが、教育長なんかありません。

(坪田教育長)

特にないです。

(河村市長)

いいですか。教育委員の方向かご意見ございますか。

(鎌田委員)

二、三点申し上げます。まだ全容がわかっていないという状況ではありますので、こういうふうな形になるのが、ある程度理解できないわけではないんですけども、やはり今回の金品の授受があったということは間違いないという前提でいきますと、そこに贈賄性がなかったのか、収賄性がなかったのかというのは、

これは一般市民の感覚からいきますと、間違いなくあったんだろうというふうに思われるわけです。

(河村市長)

何性と言われた。

(鎌田委員)

贈賄と収賄です。

(河村市長)

はい。

(鎌田委員)

ということになるのではないかとということでいきますと、これは最終的に事務局に司直の手が入るかどうかは別にしまして、名古屋市として、名古屋市教育委員会として、やはり厳正に、その内規に照らしてですね、対処すると。端的に言いますと、処罰といたしますか、そういうようなことも当然視野に入れて対処していかないといけないというふうに思うんですけど、それは非常に難しいだろうなというふうに感じたのが、記者会見等でこの教育委員会事務局から発言があった、これは激励として考えていましたと。激励で取ってしまったらですね、自民党のキックバックもですね、全部激励ですということで通ってしまうんですね。激励で通ったら、世の中は警察いらないですよ、全部激励です。そういう感覚であってですね、それで本当にこれから抜本的な改革といたしますか、或いは、この体制、この再発防止策というものが本当にできるのかなと。

これを契機にやはりゼロからの発想で考えていかないといけないというふうに思うんですけど、例えばですが、民間企業ですと、最初から数年間は大体何年かから主任になるとか、そういうようなことになるんですけど、上の方になっていきますと、全員点数がついてですね、この年次ではこの人が1番2番3番4番となってるわけですね。同じように、これ教員の中でもですね、誰が教務主任になるか、教頭になるか、校長になるかっていうところにつきましては、点数制でずっと明らかに、その点数制を上から見てどういう人かというだけではなくてですね、ちゃんと360度評価を使うとか、或いは生徒からの意見をそこに盛り込むとかですね。それをどういうふうな点数制にするかということは別ですけども、KPIも導入して、それで点数制にしていくというようなことにしていけば、自ずから透明性・公平性が確保できるということになるんじゃないのかなというふうに思いました。そういった考え方をですね、ぜひ取り入れて、取り組

んでいただければ有難いなど。

この、先ほどの案につきましては、やはり私はその処罰して欲しいとかいうような、仲間ですから、その方々が厳しい処分を受けること自体非常に悲しいことではあるんですけども、やはり、市民の血税で経営、運営されている、年間2,000億円使っているわけですから、それで市民の指弾を受けるようなことになるというふうになったらですね、本当にこれは誠に申し訳ない。そして市民、それから生徒たちの負託を受けて運営、経営していかなきゃいけないと思うんですけども、そこに自ら自浄作用、自浄機能があるんだということを示すために、ここにはやはり言葉として、必要に応じて厳正な処罰を視野に入れながらとかですね、そういうような言葉が書いてあるとよかったのではないのかなというふうに考えます。以上です。

(河村市長)

今の最後のところ、処罰も考慮に入れると。

(鎌田委員)

それもやはり視野に入れてと。

(河村市長)

わかりました。ほかによろしいですか。では、私もちょこつとということでございますので。

しかしびっくりしましたでしょ、これ。僕がヒアリングをしたところでは30年くらい前からあったんじゃないかというふうに聞いておりましたですね、それが本当に、それからまたいろいろヒアリングしとる中で、本当に知らなかったということが、そんなことあるのかと。隣のテーブルの机の中に通帳が入ってたんじゃないのかというように、これがわからなかったというのは中谷さんが言われたのかな、こういうこととなると、この真相解明するに相当なエネルギーがいると思いますね。

普通の犯罪の場合は、個人の普通の犯罪ですので、刑法は。これは組織犯罪でしょ、言ってみれば。鎌田さん言われるように、懲罰ということにもなるとしてもですね、その利害関係者いろいろ、僕も今んとこ聞いとるんですけど、端的には、金を誰からどうやって集めて、誰にどうやって使っていたかというのを1個1個明らかにしないかんと。20年か30年分からなかったものを明らかにすることですよね、これ。ですから、よほど勇気のある人間、それが一番まず重要ですわ。

第三者性も大きいけど、勇気のある人間に集まってもらわないと。利害と深く関

わってくるわけですよ。山本さんも言われたように、お母さんたちからしてもね、これ学校の先生って内申点持っとるわけでしょ。子どもはあなたこのくらいの人間だというのをつけるわけでしょ。それによって、特に高校入試、すごい影響を与えるということです、この権力の強さというかね、それにまつわる人たちの利害関係の深さということですわ。それをわからなかったという。本当にわからなかったのかどうかね、信じられんでしょ、これ。河村、おみやあもなんで気づかなんだ言われるとですね、本当に情けない話、申し訳ないとは思うんだけど、現場で気づかなかったと。こないだテレビ見ておりましたら、大体市の教育委員会教職員課、3分の2は一般職と言ってまして、3分の1が教員だと。その3分の1の教員のとこだけで行われとったということですけど。その数字はどうも本当みたいですけど。3分の1で隣の机でやっとするのはね、わからんのですかね、本当に。という大変根深いもので、中谷さんが言われたけど、本件以外、やっぱり、不正な事態も十分あるのではないかと。

鎌田さんが言われた2,000億なんですか、教育委員会は。2,000億の市民の皆さんの血税を預かっておりますんで。それが信頼できなかったとしたら、これは無政府状況ですよ、そうだとしたら。そういうことでございますので、まあ私はとにかく総合教育会議において、必要に応じて協議していくということでございます。相当重い責任感を持って当たっていきたいと。2,000億の市民の皆さんの血税を預かるに相応しい教育委員会になってもらわんことには、無茶じゃない、これ。それに関係する利害関係の皆さん、全部金の出どころ、使いみち、新聞によりますと、政治の方も書いてありますよね、これ。ですから、タブーを作っとっては、市民の皆さんに申し訳ないので。特に子どもも関係しとるでね。徹底的にやりたいということでございまして。

一応私の方から、人事は一応これ相談しながらやっておりますけど、今日発表するのは、ちょっと尚早だと、この記者会見のへんでは申し訳ないと、今そう思っとることでございます。他にはございませんか。ご意見ありましたら。

まあ、こないだ記者会見でも申し上げましたように、私も、ほとんどの教員は、子どものためにね、良い学校作ろうということ、やっていただいておりますんで、ぜひそういう教員の皆さんからのね、情報提供いただきたい。どういう金をなにに使っとるか、政治的な介入はなかったのかと。そういうことについても全部お知らせをいただきたいと。内部で、20年間わからなかったことですから。相当やっぱり関係者、実際に教員やっておられた方、それはもう幹部の方ですからね、これ多分。

山本さんは校長なったことないだろう。

(山本委員)

若いころに辞めてますので。

(河村市長)

教員はだけど、校長はないだろう。

(山本委員)

ないです、ないです。

(河村市長)

特に校長・教頭・教務、三役というらしい。そこの人事にまつわることで、ぜひ、名古屋にお住まいでなくてもええけど、ご縁のあった方でね、いや実はこうだったということがあったら、他の良心的な教員の皆さんのためにもなりますので、ぜひ情報をお寄せいただきたいと思います。これはお願いです。

どこへ送ればええんだと言われるなら、私の家へ手紙を送ってもらってもええけど、これ、住所言ってもいいですけども、(住所) に送っていただいてもええけど、市長ホットラインでもええですけど、ぜひお寄せいただきたいと。これ本当に20年間わからなかったことなんです。すごいことでしょ、秘匿性というか。そういうことをお願いしておきたいと思います。

ちょっと早いですが、何かいいですか。じゃあまあ、ここら辺で終わりたいと思いますが、皆さんね、どういうことですかね、これね。変な話になると、財政局に電話したったんだわ。あんたら金もらっとうせんだろうなって。各局から予算要望なんかあるでしょ。とんでもありませんとは言っていましたけども。

こういうものに類することで、まだちょっと時間ありますから、私も衆議院議員になったときに、与党だったんですね。日本新党。ほんで通信委員会の方の責任者やってますから。予算編成になると、(栄養ドリンク) とかですね、それから、缶ビールも郵政省の予算編成中に持っていくんです。若い人、あんまり偉い人はそう出てこないんだけど。皆喜んでもらえると。こういうのは、今のうちに自白しておきますけど。そういうもんでしたけど、金を持って行ったことはいっぺんもありません。

これで終了したいと思います。今日は集まりいただきまして、関係の皆さんもありがとうございます。ご苦労様でございました。